

**\* 萩原雄祐ゆかりの20cm屈折望遠鏡を収蔵**

アーカイブ室では、筆者を中心に歴史的に貴重な観測装置、測定装置などハード面を主に発掘し、収集している。今回は宇都宮大学にあった昭和34年(1959年)ニコン製の20cm屈折望遠鏡を収蔵した。萩原雄祐氏(写真1)は昭和21年(1946年)10月12日～昭和32年(1957年)3月31日の戦後の厳しい時期に東京天文台長を10年以上にわたって務め、東京天文台の復興、発展に強力な指導力を発揮された。東京大学教授を昭和32年(1957年)3月31日で定年退職され、東北大学教授に移られ昭和35年(1960年)3月31日の定年まで勤められた後、昭和35年(1960年)4月1日～昭和39年(1964年)3月31日の任期満了まで宇都宮大学長を務められた、この間、1954年には文化勲章を授与されている。このニコン製20cm屈折望遠鏡はまさに、萩原雄祐氏が宇都宮大学学長であった時代に設置されたものである。



萩原雄祐 (五代)

写真1 東京天文台第5代台長 萩原雄祐

宇都宮大学では、建物の更新でこの望遠鏡が入っていたドームのある建物が取り壊される際、このニコン製20cm屈折望遠鏡は、建物を解体したゼネコンの手に渡り、そして天文関係の会社に譲られていた。この天文関係の会社から、宇都宮大学にあった望遠鏡を持っ

ているが、国立天文台で有効な利用方法はないかと声をかけられた。しかし、現在の国立天文台が口径 20cm の屈折望遠鏡を天文学のために有効に使うとは考えられないが、社会教育用の観望会に使う望遠鏡としてはちょうどいいものである。また戦後の困難な時期に長らく台長を務められた萩原雄祐ゆかりの望遠鏡としてアーカイブ室で収蔵したい、譲渡の申し入れを受け入れることにした。

2010 年 12 月 21 日、この望遠鏡を天文機器資料館に搬入した。(写真 2、3)



写真 2 鏡筒部



写真 3 架台部

残念ながら、望遠鏡の接眼部が無くなっており、また 8cm のファインダーの接眼部もなくなっている。これでは復元しても観望には使えない。納入した業者に接眼部を調達するよう申し入れてある。アーカイブ室として天文機器資料館に収蔵した望遠鏡で一番大きなものは乗鞍コロナ観測所にあった 25cm コロナグラフであり、その他の望遠鏡としては、ブラッシャー天体写真儀（国立科学博物館から借用）、太陽単色写真儀（モノクロ）、写真天頂筒（PZT）、ソ連製 AFU カメラなど歴史的に貴重な望遠鏡を多数収蔵している。